

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。  
各種情報は右の QR コードからご覧いただけます。



## 令和 8 年度病害虫発生予報第 8 号

令和 8 年 9 月 9 日  
鳥取県病害虫防除所

### 予報の概要

| 区分   | 農作物名       | 病害虫名                    | 発生時期 | 予想発生量 |
|------|------------|-------------------------|------|-------|
| 普通作物 | ダイズ        | ハスモンヨトウ                 | —    | 平年並   |
| 果樹   | ナシ         | 黒斑病                     | —    | やや少ない |
|      |            | 黒星病                     | —    | 平年並   |
|      |            | クワコナカイガラムシ              | —    | 平年並   |
|      |            | シンクイムシ類                 | —    | やや多い  |
|      |            | ハダニ類                    | —    | やや多い  |
|      | ブドウ        | べと病                     | —    | 平年並   |
|      |            | チャノキイロアザミウマ             | —    | やや少ない |
|      |            | ハマキムシ類<br>(チャノコカクモンハマキ) | やや早い | やや多い  |
|      | 共通（ナシ、カキ）  | カメムシ類                   | —    | 多い    |
| 野菜   | ネギ         | 軟腐病                     | —    | 平年並   |
|      |            | 白絹病                     | —    | 平年並   |
|      |            | 黒斑病                     | —    | 平年並   |
|      |            | ネギハモグリバエ                | —    | 平年並   |
|      |            | ネギアザミウマ                 | —    | やや多い  |
|      | ネギ、ナガイモ    | シロイチモジヨトウ               | —    | 平年並   |
|      | ナガイモ       | 炭疽病                     | —    | 平年並   |
|      |            | ナガイモコガ                  | —    | やや少ない |
|      |            | ハダニ類                    | —    | やや少ない |
|      | ブロッコリー     | べと病                     | 平年並  | 平年並   |
|      |            | 黒腐病                     | 平年並  | 平年並   |
|      |            | 軟腐病                     | 平年並  | 平年並   |
|      |            | 黒すす病                    | 平年並  | 平年並   |
|      |            | アブラムシ類                  | 平年並  | 平年並   |
|      |            | コナガ                     | 平年並  | 平年並   |
|      |            | ハイマダラノメイガ               | 平年並  | 平年並   |
|      | ブロッコリー、イチゴ | ハスモンヨトウ                 | —    | やや多い  |



## 気象予報（抜粋）

1 か月予報（9 月 5 日～10 月 4 日：9 月 3 日、広島地方気象台発表）

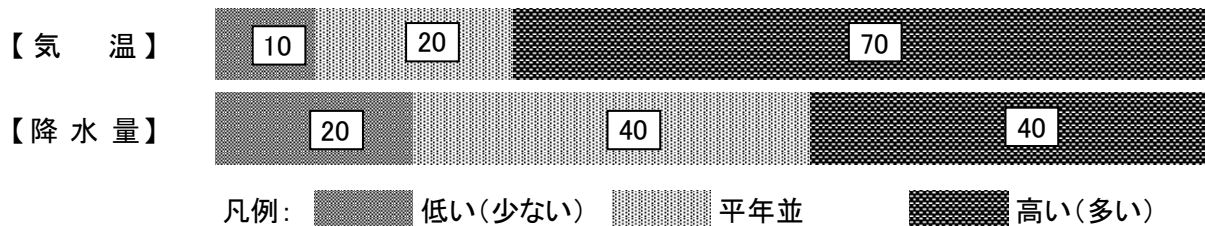
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

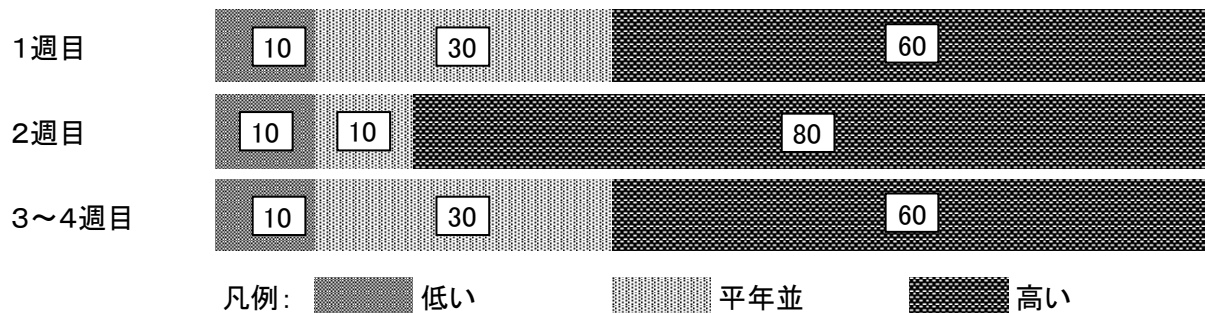
向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 70 % です。

週別の気温は、1 週目は、高い確率 60 % です。2 週目は、高い確率 80 % です。3～4 週目は、高い確率 60 % です。

### <向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(<math>\%</math>)>



### <気温経過の各階級の確率(<math>\%</math>)>



## 普通作物

### [ダイズ]

#### 1 ハスモンヨトウ

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域

発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア フェロモントラップへの 7 月第 4 半旬～8 月第 6 半旬の総誘殺数は平年並～やや少ない。

イ これまでのダイズの生育状況、本種の発生状況及び向こう 1 か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 中齢～老齢幼虫が混在する場合は、ジアミド系殺虫剤を散布する。

イ 防除の目安は、1 a 当たりの白変葉か所数 5 か所以上とする。なお、白変葉の確認にあたっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内でも観察を行う。



## 果 樹

### [ナ シ]

#### 1 黒斑病

##### (1) 予報の内容

発 生 量 やや少ない

##### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、慣行防除体系）の新梢葉における発生量は平年に比べて少ない。

イ 8月下旬現在、現地ほ場において本病の発生は目立っていない。

ウ これまでの発生経過及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年に比べてやや少ないと予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 新梢葉の発病増加と花芽への感染を防ぐため、収穫終了後の薬剤散布を徹底する。

イ 薬剤は、収穫終了後にアントラコール顆粒水和剤500倍液などを散布する。特に、現在、新梢葉の発病が多い園では、収穫後の薬剤散布を徹底し、病原菌の感染を防ぐ。

ウ 越冬菌密度を下げるため、落葉後（11～12月）の落葉処分を実施する。

#### 2 黒星病

##### (1) 予報の内容

発 生 量 平 年 並

##### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地ほ場において本病の発生は目立っていない。

イ これまでの発生経過及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期の発病は越冬菌密度の増加につながるので、収穫終了後の薬剤散布を実施する。

イ 収穫終了後にアントラコール顆粒水和剤500倍液又はベルコートフロアブル1，500倍液などを散布する。

ウ 秋季防除として、‘新甘泉’では10月上旬頃にチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液、10月中旬頃にオキシラン水和剤600倍液を散布し、多発園では11月上旬～下旬頃に1～2回の追加散布を行う。追加散布薬剤は、デランフロアブル1，000倍液、アントラコール顆粒水和剤500倍液などがある。なお、その他の品種は各地域の防除暦を参考とする。

エ 異なる品種の混植園などで薬剤散布を行う場合は、薬剤の使用基準（収穫前日数、散布回数など）に注意する。

オ 越冬菌密度を下げるため、落葉後（11～12月）の落葉処分を実施する。



### 3 クワコナカイガラムシ

#### (1) 予報の内容

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、慣行防除体系）におけるクワコナカイガラムシの被害果率は0%（平年：0%）と平年並である。

イ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期に本種の発生が認められる園では、越冬量が増加し、翌年に多発する可能性が高いことから、収穫後の防除を徹底する。

イ 多発園では、収穫終了後にダイアジノン水和剤34の1，000倍液などを散布する。

### 4 シンクイムシ類

#### (1) 予報の内容

発生量 やや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地9地点のフェロモントラップにおけるシンクイムシ類の誘殺数は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガともに平年に比べてやや多い～多い地点が認められる。

イ 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、ナシ‘ゴールド二十世紀’、無袋・殺虫剤無散布）におけるシンクイムシ類の果実被害は平年に比べてやや多い。

ウ これまでの発生経過及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年に比べてやや多いと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 現在、シンクイムシ類の発生盛期であるため、晩生品種（‘新高’、‘新興’、‘王秋’など）では防除を徹底する。

イ 薬剤は、シペルメトリン水和剤（アグロスリン水和剤2，000倍液又はイカズチWDG1，500倍液）、テルスターフロアブル3，000倍液、サムコルフロアブル10の5，000倍液、フェニックスフロアブル4，000倍液などを使用する。

### 5 ハダニ類（カンザワハダニ、クワオオハダニ、ナミハダニ）

#### (1) 予報の内容

発生量 やや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、慣行防除体系）におけるカンザワハダニの10葉当たりの寄生個体数は1.7頭と平年に比べてやや多い。

イ 8月下旬現在、現地ほ場においてハダニ類の発生の多い園が認められている。

ウ 向こう1か月の気象予報から、ハダニ類の発生に好適な条件となることが見込まれ、発生量は平年に比べてやや多いと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生密度が高い園では、越冬密度を低減させるため、秋期の対策（薬剤散布、紙バンド巻きなど）を徹底する。



## [ブドウ]

### 1 ベと病

#### (1) 予察の内容

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地ほ場において本病の発生は目立っていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期の発病は早期落葉と越冬菌密度の増加につながるので、収穫終了後の薬剤散布を1～2回行う。

イ 薬剤は、収穫終了後にムッシュボルドーDF500倍液などを散布する。  
なお、無加温ハウス栽培でのビニール除去後及び露地栽培では、散布時に固着性展着剤を加用する。

### 2 チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報の内容

発生量 やや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（砂丘地農業研究センター）の黄色粘着トラップにおける本種の誘殺数は、平年に比べて少ない。

イ これまでの発生経過及び向こう1か月の気象予報から、発生量は平年に比べてやや少ないと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発園では、収穫終了後にコテツフロアブル3,000倍液などを散布する。

イ 9月に発生量が増加すると越冬量が多くなり、翌年の発生源となるため、多発園では防除を徹底する。

### 3 ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ）

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（砂丘地農業研究センター）のフェロモントラップにおける本種の誘殺数は平年並である。

イ 8月下旬現在、現地ほ場において本種の発生は目立っていない。

ウ これまでの発生経過及び向こう1か月の気象予報から、次世代成虫の発生ピークは平年に比べてやや早い9月中～下旬頃、発生量はやや多いと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 近年、秋期の気温が高めに推移し、9月以降多発生となるほ場が認められる。秋期の発生は越冬密度を高め、翌年春の発生量の増加を招くため、収穫後であっても注意してほ場を観察する。

イ 多発園では、収穫終了後にコテツフロアブル2,000倍液、フェニックスフロアブル4,000倍液、サムコルフロアブル10の5,000倍液などを散布する。



## 〔果樹共通（ナシ、カキ）〕

### 1 カメムシ類

#### （１）予報の内容

発 生 量      多      い

#### （２）予報の根拠

ア ８月下旬現在、予察灯及び集合フェロモントラップにおけるカメムシ類の誘殺数は平年に比べて多い傾向が認められる。

イ ８月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場、無袋、慣行防除体系）において、ナシへの果実被害が確認されている。

ウ ８月下旬現在、園芸試験場の防風樹であるサンゴジュにおけるカメムシ類の１００果そう当たりの寄生数は、１頭（平年：０．５頭）と平年に比べてやや多い。

エ これまでの発生経過及び向こう１か月の気象予報から、発生量は平年に比べて多いと予想される。

#### （３）防除上注意すべき事項

令和８年度病害虫発生予察注意報第６号を参照のこと。

## 野 菜

### 〔ネギ〕

### 1 軟腐病

#### （１）予報の内容

発 生 量      平 年 並

#### （２）予報の根拠

ア ８月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生量は平年並である。

イ 本病は高温多湿で発病が助長される。

ウ 向こう１か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

#### （３）防除上注意すべき事項

ア ネギに傷がつくような無理な土寄せや追肥を行うと発病が助長されるので、避ける。

イ スターナ水和剤２，０００倍、ヨネポン水和剤５００倍、コサイド３０００の２，０００倍液、Ｚボルドー５００倍液、クプロシールド１，０００倍液などを７～１０日間隔で２～３回散布する。

### 2 白絹病

#### （１）予報の内容

発 生 量      平 年 並

#### （２）予報の根拠

ア ８月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生量は平年並である。

イ 本病は高温多湿で発病が助長される。

ウ 向こう１か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。



(3) 防除上注意すべき事項

9月に発病がみられる場合は、モンカットフロアブル40の2,000倍液、カナメフロアブル4,000倍液、ジオゼット水和剤500倍液などを株元散布する。

3 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生量は平年並である。

イ 本病は平均気温25℃前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足によって発病が助長されるので、肥培管理に注意する。

イ 薬剤は、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブフロアブルなど）600倍液を発病初期から散布する。発病が増加する場合は、ロブラール水和剤1,000倍液、ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍液、シグナムWDG1,500倍液などを散布する。

4 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本種は集中的に加害し、葉を白化させるので発生に注意する。

イ 土寄せ時にはベストガード粒剤6kg/10aの株元処理を行う。

ウ 散布剤はアグロスリン乳剤2,000倍液、ディアナSC2,500～5,000倍液、ファインセーブフロアブル2,000倍液、グレーシア乳剤2,000～3,000倍液、ヨーバルフロアブル2,500～5,000倍液などを散布する。

5 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

イ 当該害虫は、高温少雨条件下で発生が助長される。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土寄せ時にはベストガード粒剤6kg/10a株元処理、ダントツ粒剤3～6kg/10a株元処理などを行う。

イ 散布剤はウララDF1,000～2,000倍液、ハチハチ乳剤1,000倍液、ディアナSC2,500～5,000倍液、ベネビアOD2,000倍液、ファインセーブフロアブル1,000～2,000倍液、グレーシア乳剤2,000～3,000倍液などを7～10日間隔で散布する。



## [ネ ギ、ナガイモ]

### 1 シロイチモジヨトウ

#### (1) 予報の内容

発 生 量      平 年 並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）に設置したフェロモントラップによる誘殺数は平年並である。

イ 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

ウ 向こう1か月の気象予報から、高温少雨条件下で発生が助長されるため、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢期に防除を行う。ほ場内をよく観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ ネギの薬剤は、トルネードエースDF1，000倍液、スピノエース顆粒水和剤5，000倍液、ディアナSC2，500～5，000倍液、グレーシア乳剤2，000～3，000倍液、ヨーバルフロアブル2，500～5，000倍液などを散布する。

ウ ナガイモの薬剤は、デルフィン顆粒水和剤1，000倍液を散布する。

## [ナガイモ]

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発 生 量      平 年 並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）における本病の発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 茎葉の繁茂により薬液が葉裏にかかりにくいので、薬剤散布は丁寧に行う。

イ 大雨や台風の直後には、天候回復後にできるだけ早く薬剤散布する。

ウ 薬剤は、ダコニール1000の1，000倍液、ジマンダイセン水和剤400～600倍液、アミスター20フロアブル2，000倍液などを散布する。

### 2 ナガイモコガ

#### (1) 予報の内容

発 生 量      やや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）に設置したフェロモントラップによる誘殺数はやや少ない。

イ 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）において、発生量は平年並である。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項





ア 薬剤は、アタブロン乳剤2，000倍液、トレボン乳剤1，000倍液、モスピラン顆粒水溶剤4，000倍液、プレバソフロアブル5の2，000倍液などを7～10日間隔で2回程度散布する。

イ 茎葉の繁茂により薬液が葉裏にかかりにくいので、薬剤散布は丁寧に行う。

### 3 ハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生量 やや少ない

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、ハダニ類を対象にコロマイト乳剤1，000倍液など、カンザワハダニを対象にコテツフロアブル2，000倍液を葉裏にも付着するように丁寧に散布する。

## [ブロッコリー]

### 1 ベと病

#### (1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。

イ 本病は気温が比較的低く、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤は、フォリオゴールド1，000倍液、レーバスフロアブル2，000倍液、シグナムWDG1，500倍液、メジャーフロアブル2，000倍液などを予防散布する。なお、フォリオゴールドは花蕾形成前までに散布する。

### 2 黒腐病

#### (1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場において本病の発生は認められていない。

イ 本病は、降雨が多い場合や、台風に伴う風雨によって発病が助長されやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫防除を徹底する。

イ 肥料不足になると多発しやすいため、肥料切れしないよう注意する。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待ってできるだけ早く薬剤散布する。

エ 薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又はカップーシン水和剤）1，000倍液、キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤



500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

### 3 軟腐病

#### (1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。

イ 本病は、気温が高く、降雨が多いと発生が多くなる。また、台風に伴う風雨によっても発病が助長されやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫防除を徹底する。

イ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待ってできるだけ早く薬剤を散布する。

ウ 薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、Zボルドー500倍液、クプロシールド1,000～1,500倍液などを散布する。

### 4 黒すす病

#### (1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場において本病の発生は認められていない。

イ 本病は、気温25℃付近が発病適温であり、多湿条件下で発生が多くなる。また、降雨と強風により発生が多くなるため、台風に伴う風雨によって発病が助長されやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待ってできるだけ早く薬剤散布する。

イ 薬剤は、定植前の苗にパレード20フロアブルの100倍液をセルトレイ灌注する。生育期間中は、シグナムWDG1,500倍液、アフェットフロアブル2,000倍液、アミスター20フロアブル2,000倍液、メジャーフロアブル2,000倍液などを散布する。

### 5 アブラムシ類

#### (1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項



- ア 苗の育苗期後半～定植当日には、ジュリボフロアブル200倍液、ベリマークSC400倍液などをセルトレイ灌注する。また、定植前日～定植時には、キックオフ顆粒水和剤100倍液をセルトレイ灌注する。
- イ 本ぼでの発生時には、アクタラ顆粒水溶剤3,000倍液、ランネート45DF1,000～2,000倍液、ウララDF2,000～3,000倍液、トランスフォームフロアブル2,000倍液などを散布する。

## 6 コナガ

### (1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

### (2) 予報の根拠

- ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）に設置したフェロモントラップによる誘殺数はやや少ない。
- イ 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 苗の育苗期後半～定植当日には、プレバソンフロアブル5の100倍液、ジュリボフロアブル200倍液、ベリマークSC400倍液などをセルトレイ灌注する。また、定植前日～定植時には、キックオフ顆粒水和剤100倍液をセルトレイ灌注する。
- イ 本ぼでの発生時には、トルネードエースDF2,000倍液、ディアナSC2,500～5,000倍液、アニキ乳剤1,000～2,000倍液、グレース乳剤2,000～3,000倍液、ブロフレアSC2,000～4,000倍液、ヨーバルフロアブル2,500～5,000倍液などを散布する。

## 7 ハイマダラノメイガ

### (1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

### (2) 予報の根拠

- ア 8月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。
- イ 当該害虫は、高温少雨条件下で発生が助長される。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 幼苗期（育苗期や本圃での生育初期）に、幼虫が生長点付近を加害する。加害されると芯止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。
- イ 苗の育苗期後半～定植当日には、ジュリボフロアブル200倍液、ベリマークSC400倍液などをセルトレイ灌注する。
- ウ 本ぼでの発生時には、フローバックDF1,000倍液、ディアナSC2,500～5,000倍液、アフームエクセラ顆粒水和剤1,000～1,500倍液、プレバソンフロアブル5の2,000倍液、ヨーバルフロアブル2,500～5,000倍液、グレース乳剤2,000～3,000倍液、ブロフレアSC2,000～4,000倍液などを散布する。



## [ブロッコリー、イチゴ]

### 1 ハスモンヨトウ

#### (1) 予報の内容

発生量 やや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬現在、県予察ほ場（園芸試験場）に設置したフェロモントラップによる誘殺数は平年並である。

イ 現地調査ほ場における発生量は平年並である。

ウ 当該害虫は、高温条件下で発生が助長される。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢期のうちに防除を行う。ほ場内をよく観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ ブロッコリーでは、ディアナSC2，500～5，000倍液、アニキ乳剤1，000～2，000倍液、プレオフロアブル1，000倍液、ファルコンフロアブル4，000倍液、グレースシア乳剤2，000倍液、ブロフレアSC2，000～4，000倍、ヨーバルフロアブル2，500～5，000倍などを散布する。

ウ イチゴでは、マッチ乳剤3，000倍液、フェニックス顆粒水和剤2，000～4，000倍液、トルネードエースDF2，000倍液、グレースシア乳剤2，000倍液などを散布する。



[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、  
周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、農林水産省の「農薬登録情報提供システム」から検索  
できます (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

なお、農薬の使用や防除指導などに際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病害虫防除所ホームページ>

アドレス <https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/>



病害虫発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類等）、病  
害虫の診断方法等の参考情報をお知らせしていますので、御利用ください。

<お問い合わせ>

普通作物関係

〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病害虫防除所

（電話：0857-53-1345、電子メール：byogaichu@pref.tottori.lg.jp）

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

（電話：0857-53-0721、ファクシミリ：0857-53-0723）

果樹・野菜関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

（電話：0858-37-4211、ファクシミリ：0858-37-4822）

※次回、予報第9号の発表は10月7日（水）の予定です。

なお、予定日と実際の発表日が前後することがありますので、御注意ください。



◆農作業死亡事故警報を発令中！（９月３日～９月１６日）

安全確認や声掛けで事故を未然に防ぎましょう

◆令和８年度秋の農作業安全啓発活動を推進中！

（９月１日～１０月３１日）

忘れていませんか？メット・ベルトの基本対策！  
転倒から命を守る確かな一歩

- ・機械の転落・転倒防止
- ・シートベルトの着用
- ・ヘルメットの着用

「７月から９月は「夏の熱中症 声かけ期間」です」  
「熱中症を防ぎましょう」  
「野焼きの延焼による山林火災に注意しましょう」  
「危ない！耕うん機はぼちぼち運転で」  
「農作業中のダニ刺咬に注意！」

鳥取県農林水産部経営支援課ホームページ、農業機械・農作業安全  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/119790.htm>

<連絡先>

〒680-8570 鳥取市東町 1-220

鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課農業普及推進室  
（電話：0857-26-7327、FAX：0857-26-7294）

